

ビジネスレジスターに関する専門家グループ会合 出席報告
Meeting of the Group of Experts on Business Registers 2015

1 開催日

平成27年9月21日（月）から23日（水）まで

2 場 所

ベルギー・ブリュッセル Conference Centre Albert Borschette (CCAB)

3 参加国等

54か国、5 国際機関から合計97名が出席。

4 会合の趣旨等

- ・統計ビジネスレジスターの方法論及び実践的な開発に関する知見を共有し、ビジネスレジスター（BR）の品質と国際比較可能性の向上に資することを目的として隔年で開催。
- ・会議は一般セッション、スペシャルセッション「統計ビジネスレジスター（SBR）に関する国際ガイドライン」、2014年各国業務進捗報告（カントリープロGRESSレポート）で構成。

5 各セッションの内容

(1) セッション I（議長：Caterina Viviano氏・イタリア）

「統計ビジネスレジスター（SBR）と他の情報源の結合による起業統計の作成」

①各国の知見の要旨（OECD）

- ・起業家の特性に関する学者、政策担当者等の疑問（起業家の特性、起業家に占める女性の割合など）、起業家統計に用いられるデータ源（標本調査、センサス、ビジネスレジスターと関連づけられる行政記録など）について報告。
- ・人口、労働統計などを活用しても情報が完全ではない。

②SBRのビジネスデモグラフィへの活用 - カナダの知見 -（カナダ）

- ・現状のDBのIDでは不十分で、パネルデータ（longitudinal Data）の作成が困難。
- ・企業の開廃情報の把握が困難・LEAPプログラムで別途作成されたIDを活用し、ビジネスデモグラフィの精度向上を図っている。統計作成の自動化が今後の課題。

③オランダにおける自営業のサテライト（オランダ）

- ・社会保障や付加価値税などの情報を統合しサテライト自営業レジスターを作成。
- ・自営業の定義の難しさ、給与が支払われないと税務データに登録されないこと等が課題。

④ロシア連邦におけるビジネスデモグラフィ（ロシア）

- ・連邦税庁の登記情報と連邦統計庁のSBRをベースとし、線形判別分析と線形重回帰モデルを用いたデモグラフィ作成に関する報告。
- ・法人事業者と個人事業者を分けて推計する方法を開発中。SPSSによる欠損値補完の紹介。

⑤SBRと他の情報源の結合による起業統計の作成（チュニジア）

- ・公式に記録されない経済部門（informal sector）の労働者についてBRの情報から推計。
- ・回帰分析の結果、上記部門の労働者数は収入階級が高いほど低く、若年ほど高く、建設業で高く、特定の地域で高い値となることが示された。

- ⑥ジョージアにおける起業統計作成のためのSBR及び他の情報源の活用（ジョージア）
 - ・行政記録でBRを整備し、起業統計を作成。
 - ・行政記録の質が低く、方法論の未整備、人的・資金面でのリソース不足といった課題に対応する必要がある。
- ⑦起業家の測定（イタリア） - 事業所と世帯データの比較分析から -
 - ・2010年以降、雇用者・被雇用者リンクデータベース（LEED）が整備され、レジスターベースの起業家統計の分析が可能。
 - ・労働力調査とLEEDとのマイクロデータレベルでのリンクによる分析も実施。
- ⑧メキシコにおけるビジネスデモグラフィ - 進捗と見通し - （メキシコ）
 - ・経済センサスをベースにビジネスデモグラフィを作成。
 - ・地域、産業、従業者規模別にセンサス中間年の生存確率を計算し、年率に直して推計。地域、産業、規模ごとに生存確率は異なり、製造業や小規模事業所の変動が激しい。

(2) セッションII（議長：Nadim Ahmad氏・OECD）

「統計ビジネスレジスター（SBR）と貿易統計のリンク」

- ①UNSDによる貿易統計とBRのリンケージに関する事前評価結果（UNSD）
 - ・貿易統計とBRのリンケージに関するグローバルな実践状況把握のための調査を実施。
- ②ドミニカ共和国における輸出入企業のプロファイリング - 関税データを活用した政策決定に資する情報の作成 - （ドミニカ）
 - ・輸出入企業のプロファイリングは関税部門と統計部門のデータ交換により精度が向上。
 - ・関税データは統計目的でデータを整備していないため項目によってはエラーが多い。
- ③企業の特性に基づく貿易統計（Eurostat）
 - ・EU各国の既存の統計をマイクロデータレベルで結合したヨーロッパ統計システム（ESS）の取組を実施。現在、2016年（平成28年）までの計画が進められている。
 - ・標本調査と行政記録の結合、最新データだけでなく過去のデータとの結合、統計作成に責任を持つ組織が国によって異なるなどの点が課題。
- ④FATS（外資系企業統計調査）へのSBRの利用 - 自国の経験から - （ドイツ）
 - ・I-FATS（海外企業にコントロールされる自国企業）のカバレッジは2014年以降向上。
 - ・O-FATS（自国企業がコントロールする海外企業）とI-FATSの整合性は、ユーログループレジスター（EGR）により保証されており、重回帰モデルにより補完。
 - ・最上位の統括企業の特定、I-FATSの規模の特定、企業内取引の分析が課題。
- ⑤FDI（海外直接投資）データとBLS（米国労働統計局）のBRとのリンケージ - 海外直接投資に関する雇用の測定方法の開発 - （BLS）
 - ・報告者負担を軽減し、新たな情報を付与するため、BEA（米国経済分析局）の海外直接投資データにBLSの四半期雇用賃金統計（QCEW）をマイクロデータレベルでマッチング。
 - ・マッチングは機械的に行われた後、アナリストが十分に内容を確認。
- ⑥フランスのBRにおける貿易統計とプロファイリングのリンク（フランス）
 - ・SIRUSというSBRを中心に登記や複数のレジスターを結合し、新たな統計が生み出される。
 - ・国際商品貿易統計は、関税部門がSIRUSにアクセスして作成し、サービス貿易統計は、中央銀行がSIRUSの母集団情報に基づく標本調査を実施して作成。
- ⑦北欧諸国とOECDのグローバルバリューチェーン（GVC）の均質性に係るマイクロデータのリンケージ（デンマーク）

- ・公的統計の多くの構造はグローバルな仕様になっていないが、ダイナミックなグローバル化ではGVCに係る新たな概念が必要。
- ・報告者負担の増加が不可能な環境下で、特に、政策ニーズが高い輸出企業に着目したマイクロデータのリンケージが必要。

(3) セッションⅢ（議長：Arturo Blancas氏・メキシコ）

「地理空間情報及びその他の情報源の活用 -SBRの改良のための照合方法とその実践-

- ①2014年経済センサスで利用したモバイル端末用の事業所地理情報参照システム及び行政記録に基づく客体への地理情報の参照に関する考え方（メキシコ）
 - ・2014年の経済センサスでは、フィールド活動を支援するためのタブレットシステムを開発。GISシステムと連携し、地図の更新、担当事業所のプロット表示を行えるようにした。
- ②地理空間情報とSBRのリンクについて（UNSD）
 - ・地理情報により、地域的な経済活動の広がり、大企業の適正な分布状況の分析等が可能。
 - ・メキシコ（Google Earthの活用）、オーストラリア（地理空間情報をBRに収録）及びカナダ（小地域分析にBRのマイクロデータを活用）の取組について紹介。
- ③「第9回産業及びサービスセンサス」データの地理的コーディングプロセス - そのソースとメソッド - （イタリア）
 - ・2012年に実施した産業・サービスセンサス（企業・非営利団体・公的機関が対象）において、地理コード別の各種活動状況（約500万項目）を把握。
 - ・センサスの調査区とデータとを関連づけるために、「Egon-Data Quality」（商用の地理情報解析ウェブアプリケーション）、GIS、郊外道路番号アーカイブなどを活用。
- ④オーストラリアのBRにおける地理空間情報の可能性（オーストラリア）
 - ・経済統計の単位（企業グループ、アクティビティ別単位、法的単位(Legal Units)）に、場所別統計単位（location Statistical Units）を追加。
 - ・地理情報コードへのBRシステムの対応、他のデータウェアハウスへのインプット等。
 - ・全てのBRには地理情報、産業分類が付与されており、企業グループレベルでの地理情報付与を進めているが、位置情報の利活用、維持、データの品質が今後の課題。
- ⑤多目的国家世帯調査を通じたMSMEsの把握（ドミニカ）
 - ・従業者の56%、中小企業の96%を占めるインフォーマルセクターについて、2013年多目的全国世帯調査（ENHOGAR2013）によって得られたデータを元に、その経済活動を推定。
- ⑥ボスニアヘルツェゴビナにおける統計調査（SBRベース）からのフィードバックシステム（ボスニアヘルツェゴビナ）
 - ・BRのデータ源、統計単位、更新方法、統計調査結果をBRにフィードバックしてBRの品質を向上させるための取組について報告。
- ⑦BRデータの地理的測位（Geolocation）について（カナダ）
 - ・BRデータの地理的測位について、プロトタイプDBに基づく分析結果を紹介。
 - ・Google Map APIに基づき作成したトラベルディスタンスデータとBRデータを結合し、農業、漁業、林業、エネルギー及び鉱業の5つのセクター単位でデータを作成。

(4) スペシャルセッション（議長：Norbert Rainer氏・オーストリア）

「SBRに関する国際ガイドライン」

- ・本年6月のCES（欧州統計家会合）で承認された「SBRに関する国際ガイドライン」について、取りまとめ担当のオーストリアから現在までの取組と今後の方向性について説明。

- ・将来の業務に関しては、国際貿易統計や経済のグローバル化の加速などを検討。
- ・ガイドラインの充実を図るため、各国の業務進捗報告（カントリープログレスレポート）のテンプレートを変更し、よりの確にニーズを把握する必要がある。

(5) セッションIV（議長：Amerigo Liotti氏・Eurostat）

「統計作成及びサービスの現代化に係るビジネスレジスターの役割 -GSBPM、GSIM、データウェアハウス、ビッグデータを含む新たなデータの活用-」

- ・グローバル化で生じた新たな疑問やBRユーザーの要望の変化に関連して、単一情報源に基づく旧式のBRから現代的なBRへの変革で生じた知見や課題に焦点を当てる。
- ※GSBPM (Generic Statistical Business Process Model・汎用統計ビジネスプロセスモデル)：統計組織による統計作成過程の現代化について標準的なフレームワークを提供。
- ※GSIM (Generic Statistical Information Model・汎用統計情報モデル)：共通統計作成アーキテクチャー (CSPA) の導入のベースになるもの。

①GSBPM及びGSIMの現代化に関するハイレベルグループの業務 (UNECE)

- ・公的統計の現代化に関するハイレベルグループ (HLG) の取組実績、課題について報告。
- ・データ収集の困難化、政策立案者等からの要求の高度化の下、各国の協力に必要な共通のインフラの整備を推進。
- ・本年3月にはGSBPMを拡張、補完する新たなモデルとしてGAMSO (Generic Activity Model for Statistical Organisations) をリリース。

②GSBPMの導入からの教訓 (エストニア)

- ・統計作成機関間で統計作成過程を共通化するためのGSBPMの導入経緯と教訓等を報告。
- ・GSBPMによるBRのプロセスの記述は概ね可能だが、GSBPMのサブプロセスでは記述しきれない活動もあり、経常的活動と周期的活動の表現方法にも課題が残る。

③ABSビジネスレジスターの変更 (オーストラリア)

- ・マイクロデータ分析、ビッグデータ対応のための組織変更を含む5か年計画について報告。
- ・プロファイリングとエディティングを一つのチームに編成し、データの一貫性を向上させる取組、行政記録保有機関との連携、データと組織構造を記述するセマンティック・アプローチ (Semantic Approach：コンピュータに文書や情報の持つ意味を正確に解釈させ、文書の関連付けや情報収集などの処理を自動的に行わせる技術) などについて報告。

④特定の統計サブジェクトに係るSBRの現代化に関する挑戦 (モンテネグロ)

- ・新たな調査を立ち上げる際の一般的なプロセスモデルや、今年から導入した新たなアプリケーションツールに関する報告。地理情報の活用が大きな課題。

⑤EGR (ユーログループレジスター) の識別サービス (Eurostat)

- ・EGR-IS (EuroGroups Register Identification Service)：各国における法的単位 (Legal Units) を同定し、ユニークID (LEID/Legal Entity Identifier Number) 付与システム。
- ・LEIDは全ての法的単位をカバー。LEIDには国を表す2桁コード、各国の様々なレジスターを表す11桁のコード等で構成。各国のBRをデータ源として、年次で更新。

⑥SBRと公的統計の目標の遷移について (UNSD)

- ・持続可能な開発目標 (SDGs) は17分野で169ものターゲットが存在。これに対応する形で公的統計の現代化としてグローバルな統計結合システムが求められる。

(6) セッションV（議長：Kati Heikkinen氏・フィンランド）

「SBRのアウトプット -ビジュアル化、地理空間情報、BRアプリ、オープンデータ-」

- ①EGR FATSのインターフェース (The EuroGroups Register FATS interface) (Eurostat)
- ・EGRにより、企業の国際的活動や多国籍企業グループの把握、統計調査結果の一貫性向上、母集団情報の精度向上が期待。
 - ・EGRのFATS (外資系企業統計調査) のインターフェースを開発、今年5月から提供。欧州の統計機関と中央銀行だけがアクセス可能。EC (欧州委員会) のウェブから、国際企業のID・産業・名称での検索が可能で、母集団フレームの抽出も可能。
- ②フィンランドにおけるオープンデータ及びSBRのアウトプット (フィンランド)
- ・SBRのアウトプットとしてのオープンデータについて報告。利用者の制限、有料など、一般的なオープンデータと異なるので、その明確な定義が必要との意見があった。
 - ・マイクロデータはBRを経由して提供。登録された学術機関ではリモートアクセスも可能だが、商業ベースの企業との競合が存在。

(7) スペシャルセッション (議長: Norbert Rainer氏・オーストリア)

「カントリープログレスレポートについて」

- ・各国の業務進捗報告 (カントリープログレスレポート) の取りまとめ結果を報告。

(8) ラウンドテーブルディスカッション (議長: Gaetan St-Louis氏・カナダ)

「SBRは現在及び将来の課題に沿っているか? - 利用者のニーズ及び商用データプロバイダー間の競争-」

- ・OECD、フィンランド、Eurostat、メキシコ、オーストリア、イタリアによる討議。
- ・行政記録の活用は、品質も含めて課題が多い。多くの中央銀行が所有するレジスターとSBRの協力が必要であること、商用データプロバイダーには不可能な価値の高いデータを提供する必要があること、品質と適時性は大切であるが両者は必ずトレードオフになることなど、広範に議論。

6 次回会合の予定

次回会合は2017年にOECDがオルガナイザーとなりフランスのパリでの開催を予定。

以上

※本会合の主要な資料は、国連欧州経済委員会のウェブサイトに掲載。

<http://www.unece.org/index.php?id=37896#/>

※本会合終了後、ヴィースバーデングループ会合の執行部会合である「ステアリンググループ会合」が開催され、来年11月の東京開催について所要の検討を実施。